

【飯南町】
校務DX計画

1. 飯南町における校務DXの現状と課題

飯南町では、令和2年度に各学校の児童生徒に1人1台端末が導入され、学習における端末活用が進んできた。一方で、校務支援システムは未導入であり、校務におけるデジタル化の推進は不十分である。今後、県域での共同調達による次世代の校務システムの導入が行われることを踏まえ、現状と課題として以下のことが挙げられる。

●学校と保護者間の連絡

欠席・遅刻・早退の連絡や学校からの情報発信が電話や紙ベースで行われており、保護者との円滑な連絡が難しいこと。

●教員と児童生徒間の連絡

学習に関する評価や学習の進捗状況をすぐに把握することができないこと。

●学校内の連絡の非効率さ

情報共有が電子メールや紙ベースで行われ、データの集約や迅速な意思疎通が困難な状況にあること。

●従来の業務習慣

FAXでのやり取りをする習慣が残っており、それが校務の効率化やペーパーレス化の妨げになっていること。

●校務系と学習系のネットワーク

校務系と学習系のネットワークが分離していること。

2. 校務DXの具体的な計画

1を踏まえ、飯南町における校務DXの推進のため、以下の施策を実施する。

●教員と保護者間の連絡のデジタル化

欠席・遅刻・早退等の連絡にGoogleフォームを利用し、保護者がオンラインで連絡を行う。教員は空いた時間に確認ができ、即時に対応することができる。

●学校内の連絡のデジタル化

学校内で共有する資料をGoogleドライブに保存することで、教職員が同一のデータを確認・編集できることから、効率的に情報共有を行うことができる。校内連絡はGoogleサイト等を利用し、口頭や紙ベースでの連絡を減らしていく。

●教員と児童生徒間の連絡のデジタル化

連絡はGoogle Classroomを通じて行い、正確性と迅速さを確保する。課題提出や評価もデジタル化することで、学習の進捗状況を即時に把握することができる。

●その他の校務改善策

FAXでのやり取りを減らし、各種連絡をGoogleクラスルームで行うことで通信費の削減と業務効率化を図る。

各種調査やアンケートはGoogleフォーム等を利用し、集計や分析する時間を削減することで教職員の負担を軽減する。

●校務系と学習系のネットワーク統合

次世代の校務システムを導入するために、首長部局と密に連携し分離している校務系と学習系のネットワークを統合すること。

県域での共同調達による次世代の校務システムの導入を視野に入れ、文部科学省の「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の成果を参考にしながら飯南町の教育現場における校務DXを推進していく。